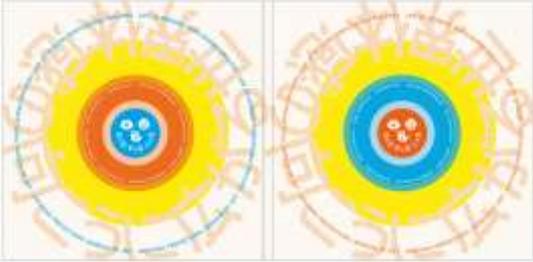


申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	島田 清徳
調査研究課題	体感型展覧会の検証とユニバーサル・ミュージアムの研究					
調査研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	島田 清徳	デザイン学部 造形デザイン学科	テキスタイル	展覧会実施後の検証と記録集の作成 ワークショップの立案・実施 消耗品・アルバイト雇用、等	
	分担者	福富 幸	岡山県立美術館 学芸員	展覧会企画 美術館運営	展覧会実施後の検証と記録集の作成 ワークショップの広報・実施	
調査研究実績の概要 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 地域貢献への反映を踏まえて記述のこと </div>	<p>平成26年度の地域貢献特別研究として、五感を通して体感する展覧会「目の目 手の目 心の目 体感の向こうに広がる世界」展を開催した。</p> <p>岡山県立美術館が主催し、岡山県立大学、くらしき作陽大学、島根県立大学、京都文教短期大学、京都市立芸術大学が協賛となり、8名の研究者の体感型作品により会場が構成された。</p> <p>岡山県内外の一般市民の他、保育園、小・中・高・大学や、盲学校からの団体鑑賞を受け入れ、健常者のみならず視覚障害者も五感を通して素材の特性を体感するという新しい美術の鑑賞方法を、地域密着型の展覧会として実践的に示すことができた。</p> <p>※展覧会延べ入場者数は約12,000人 ※学校の団体鑑賞は6件（約340人）</p> <p>平成27年度は、美術館と大学の連携による体感型展覧会の研究成果を検証し記録集にまとめ、今後の美術館の新しい取り組みのための参考資料として各地の関係諸機関に配布することとした。</p> <p>さらに、「身体感覚を呼び覚まし、行為そのものを楽しむためのワークショップ」を実施し、ユニバーサル・ミュージアムとしての体感型展覧会の新展開の可能性を探った。</p>					

<p>調査研究実績の概要</p> <p>（地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）</p>	<p>【記録集】 通常美術展覧会で作品に触れる機会は少ないが、平成26年度実績として鑑賞者が作品に触れ五感を通して体感することのできる展覧会を実施した。新聞にも取り上げられ岡山県立美術館二階展示室の来場者数としては異例の12,000人以上を記録し、子どもから年配者までの幅広い年齢層に受け入れられ好評を博した。このような全国的にもあまり前例のないユニークな事例を記録集としてまとめ、各地の美術館等関係機関に配布することにより、ユニバーサル・ミュージアム（障害者を含むだれもが楽しめる美術館）の考え方を普及するための一助になればと考える。</p> <p>4月 26年度事業のまとめと検証 5月 記録集編集方針、デザインの検討 11月 印刷発注先の選定 12月 記録集デザインの検討 H28年2月 記録集完成納品 3月以降 美術館から関係機関に発送</p>  <p>記録集の表紙と裏表紙のデザイン</p> <p>【ワークショップ】 美術作品や美術館は「非日常」として捉えられるが、一方で美術作品を手で触れ体感することは「日常的な体験」「親しみやすさ」と重なり、現在求められている美術館状況にも一致する。そこで、「日常と美術」をきっかけとし、「身体感覚を呼び覚まし、行為そのものを楽しむワークショップ」を実施し、参加者の行為と反応を観察することにより、ユニバーサル・ミュージアムとしての体感型展覧会の新展開の可能性を探った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テープを用いた身体運動を伴うワークショップ（10/4、10/18） 2. 手の中でひたすら丸めるときの感覚を楽しむワークショップ（9/27） <p>これらのプログラムを、小学生以上の一般市民に向け実施した。</p>   <p>今後、ユニバーサル・ミュージアムとしての体感型展覧会「目の目 手の目 心の目 体感の向こうに広がる世界」展の次なるステップとして、「さわることのできる」作品から「さわることにより完成する」作品による展覧会の構築方法を研究し、数年後の実現を目指したい。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>記録集 1冊</p>